

令和7年度 医療的ケア児に関わる職員向け講演会

「医療的ケア児の実際～ 総合病院小児科医の立場から～」

1. 開催概要

開催日時： 令和7年12月2日（火）午後3時～5時

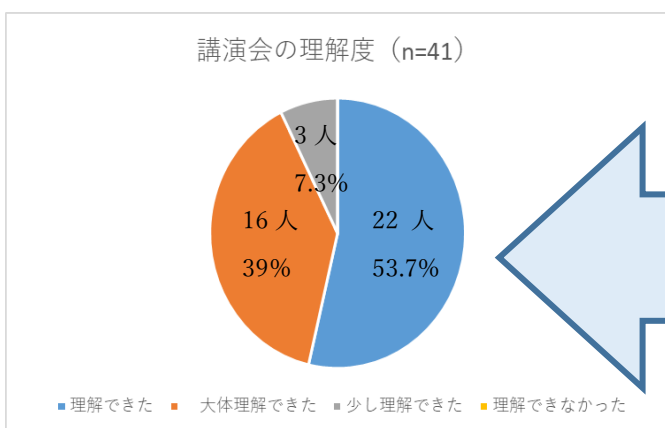
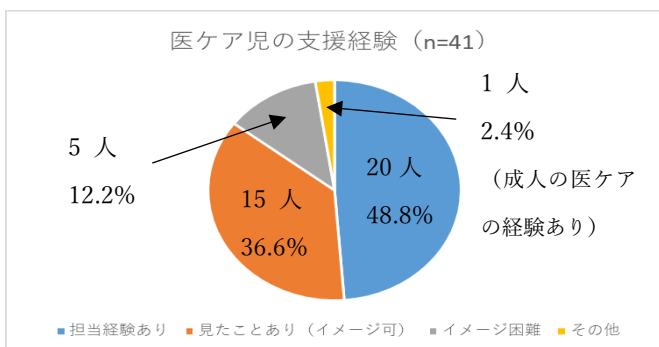
会場： 子ども家庭支援センター 4階 会議室

講師： 聖路加国際病院 小児科 副医長 梅原 直 先生

受講者数： 52名

- ・保育関係 19施設 24名（うち看護師 16名）
- ・教育関係 1施設 1名
- ・その他（部会委員、保育課、放課後対策課、保健所・保健センター、子ども発達支援センター、歯学部実習生） 27名

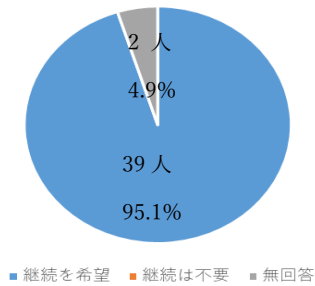
2. アンケート結果より



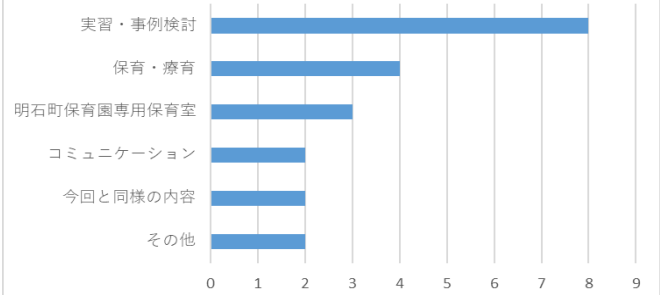
<理由>

- ・具体的な内容で勉強になった。
- ・医療の知識がほとんどなくても聞きやすかった。
- ・基本的な考え方・捉え方の理解が進みました。
- ・資料も見やすく、講師の話も上手だった。
- ・現場の医師の話がイメージしやすかった。
- ・講師の私見を踏まえた話がわかりやすかった。
- ・緊急時の対応や確認事項がわかりやすかった。
- ・実際に担当している子どもを思い浮かべて話を聞くことができた。
- ・気切の子を預かっていないのでイメージがしにくかった。
- ・実際のケア担当者が「将来的不安」等を意識することの意義を知った気がします。
- ・ケアをする上での視点や注意点等、医療者として必要なことを学ぶことができた。
- ・もう一度学習したい意欲が出ました。
- ・いざ受け入れを打診された時、どう考えたら良いか知ることができた。
- ・知らないことが興味深かった。
- ・仕事をする上での準備とリスクマネジメントを学ぶことができた。
- ・保育の現場で病院で行っていた内容を行うのはやはり難しいと改めて感じた。
- ・どんな手技があるのかわかることで、できなくても不安を減らせるための知識の1つになると思った

来年度以降の講演会の開催について (n=41)



取り上げてほしいテーマ



感想

- ・もっと広く、多くの人に聞いてほしいと思うくらいとてもタメになる講義でした。
- ・今後の支援に活かしていきたいと思います。
- ・医ケア児を受け入れるにあたり、医師との連携は欠かせません。お忙しいと思いますが、ケース会議や実際に園にも来ていただいて、子どもが生活する姿をイメージし、より良い方法を一緒に考えてくださる流れになれば良いと思います。
- ・小児科のジレンマについてとても共感しました。医ケア児が多くなる中、保育側と医療側、どちらの気持ちもわかるため、もう少し現場に寄り添えるよう保育の知識を深めたいと思いました。
- ・気管切開について、抜去時の対応や心づもり等、理由も説明しながら教えていただき、とても理解できました。
- ・医ケア児と関わることはゼロではないが多くないため、とても勉強になりました。
- ・子どもや家族に寄り添う先生の姿勢に学ぶことが多くありました。
- ・受講にあたって、受講されている方にも注目していましたが、皆さんが大変しっかり受けられていたのに感心した。一方で、出席のない施設・学校への浸透や意識について温度差・疑問は覚えました。